

平成29年度第1回那珂市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成30年2月6日(火)  
午前10時00分～午前11時45分
- 2 場 所 那珂市役所5階502・503・504会議室
- 3 出席者
- |       |      |        |       |       |
|-------|------|--------|-------|-------|
| (構成員) | 市長   | 海野 徹   | 教育委員長 | 佐藤 哲夫 |
|       | 教育委員 | 中澤 明   | 教育委員  | 住谷 光一 |
|       | 教育委員 | 小笠原 聖華 | 教育長   | 大縄 久雄 |

(事務局) 【総務部 総務課】

総務部総務課長 川田 俊昭  
課長補佐(総括) 石井 宇史  
課長補佐(総務グループ長) 小泉 友哉  
総務グループ主幹 齋藤 哲生

【教育委員会教育部 学校教育課 指導室】

教育部長 高橋 秀貴  
教育部学校教育課長 小橋 聡子  
課長補佐(総括) 渡邊 勝巳  
副参事兼指導室長 大高 伸一

【教育委員会教育部 生涯学習課】

生涯学習課長 高安 正紀  
課長補佐(総括) 小林 正博  
社会教育主事 富山 覚志

4 会議次第

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 協議事項
  - (1) 那珂市教育大綱の進捗状況について
  - (2) 地域の実情に応じた教育の取り組みについて
  - (3) その他
- 4 連絡事項
- 5 閉 会

5 内 容

川田総務課長：定刻となりましたので、ただいまから平成29年度第1回那珂市総合教育会議を開催いたします。

始めに、海野市長からあいさつをお願いいたします。

海野市長： 本日は平成29年度第1回的那珂市総合教育会議に、教育長をはじめ教育委員の皆様方におかれましては、ご多忙の中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、平素から子どもたちの教育の充実発展にご尽力いただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

さて、平成27年度にこの総合教育会議が設置され、平成28年1月に那珂市教育大綱が策定されました。

大綱が策定されてから2年が経過しましたが、今回においても、現在の進捗状況や教育現場における取組状況を確認し、委員の皆様と意見交換を行い、今後の進め方などを改めて確認できたらと考えております。

よろしくをお願いいたします。

川田総務課長： ここからは那珂市総合教育会議設置要綱第4条第1項に基づき、市長が議長となり会議を進めていくこととなります。

それでは、市長よろしくをお願いいたします。

海野市長： それでは要綱に基づきまして、議長を務めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

海野市長： 次第3番の協議事項ですが、まず、(1)「那珂市教育大綱の進捗状況について」、事務局より説明願います。

小橋学校教育課長： 大綱の3ページになります。

学校教育課からは、施策1について、記載の内容にそってご説明いたします。まず、1段落目、「知・徳・体」の育成の施策になりますが、非常勤講師につきましましては、小学校において教科担任制を実施するため、「小中一貫非常勤講師」を配置しております。障がい児の学習指導員、生活指導員の配置ですが、昨年度より4名増員しまして、合計23名となっています。次の「35人学級」ですが、県のほうで小学1年から中学2年までを少人数教育の対象としております。那珂市では、中学3年生について、単独事業として実施しています。

次に英語教育です。学習指導要領の改定により、今後、小学校の英語教育が強化されます。那珂市の現状を申し上げますと、現在の指導要領では、外国語活動は5・6年生で実施、となっておりますが、那珂市では、すでに、小学1年から4年生においても実施しています。また、5・6年生については、現在、求められて

いる「聞く・話す」活動ばかりではなく、指導要領の改訂に先がける形で、「読む・書く」活動についても、今年度から前倒して実施しているところです。このように、国に先行した形で英語教育に取り組んでいるところですが、それにはやはり教職員の指導力が重要ですので、資質向上のため、各種研修を充実させているところです。また、英語による「コミュニケーション能力」の育成においては、特に、ALTの役割が重要です。本年度は、1名増員して10名としたほか、ALTを活用した新しい取り組みを、2つ、始めましたので、ご紹介します。ひとつは、「イングリッシュルーム」の設置です。これは、各中学校にALTが常駐する部屋を設けて、日常的にコミュニケーションの学習ができるような環境を作ろうというものです。もうひとつは、「イマージョンスクール」の開催、「イマージョン」というのは「浸る」という意味、つまり「英語漬け」ということで、日本語は一切使わない、英語だけの世界でコミュニケーション能力を育成しようというものです。小・中学生を対象に、今年度は夏と秋の2回、ALTが中心となってスクールを開催しました。

続きまして、3ページの下から4ページにかけて、小中一環教育がありますが、特に、4ページにある、「教育効果の向上」と「教職員の指導力の向上」という2つの観点から、取り組みの一端をご報告します。まず、ひとつめの「教職員の意識改革」ですが、小中の接続を意識した学習、つまり、小学校の学びを、どう中学校へつなげていくか、について、学園内の教職員が情報交換や検討を重ねながら、認識を共有していく取り組みを進めているところです。2つめの「指導力の向上」という点からは、各種の研修はもちろんですが、学園単位での授業研究や指導計画の作成など、授業改善に取り組んでいます。

続いて、教育相談です。「教育支援センターの機能充実」として、本年度は、就学担当専門の相談員を1名増員して、体制を強化しました。

次のいじめ問題ですが、まず、那珂市の現状を申し上げますと、本年度は、2学期末の時点で、小中合わせて292件となっており、昨年度より増加の傾向にあります。しかしながら、これは、単にいじめが増加している、ということではなく、昨年3月に国の方針が変わりまして、喧嘩やわるふざけといった軽微なものも、いじめの疑いありとして、より積極的に認知するという姿勢に変わったためです。未然防止や早期解決の観点からも、学校では、今まで以上に子どもたちを観察しながら事例を拾い上げているところです。

大綱にあります、地域との連携ですが、引き続き、民生委員や青少年相談員、警察など、関係機関とともに、いじめ問題に対する理

解を深めてまいります。

最後に、幼児教育です、本日、特に申し上げたいのが、「小学校教育との連携強化」です。県でも本格的に就学前の教育に力を入れ始めましたが、那珂市では、すでに取り組みを開始しております。昨年度ですが、市内の公立・私立の幼稚園、保育園、そして小学校の先生方が研修会を共にしながら、幼児教育と小学校教育をつなぐ、新たなカリキュラムを作成しました。この新しいカリキュラム、2つありまして、まず、幼稚園や保育園の先生方が作ったのが、アプローチカリキュラム、小学校生活に円滑に送り出すための、自立をめざすカリキュラムです。一方、小学校の先生方が作ったのが、スタートカリキュラムです、入学してきた子どもたちが、幼児期の学びを基礎として、学校生活にステップアップさせるカリキュラムです。本年度は、これらのカリキュラムをもとに、いわゆる小1ギャップの解消など、小学校に円滑に移行するための取り組みを行っているところです。

以上、施策1についての学校教育課からの報告を終わります。

高安生涯学習課長： それでは、生涯学習課所管分についてご報告いたします。

施策2についてご説明いたします。施策2は「生涯にわたり学ぶことができる環境の充実を図る」でございます。中央公民館では学級講座開設事業を行い、4月から20講座、363名が受講しております。9月3日には「映画会」を午前と午後の2部構成で開催し、午前の部は「シング」を午後の部は「ペット」を上映し、184名が鑑賞しました。また、11月23日から25日にかけて「公民館まつり」を開催し、定期利用団体や講座受講生による発表が行われました。市立図書館では、10月28・29日の両日で「図書館まつり」を開催しました。1日目は工作教室、朗読会、腹話術師によるお話し会を、2日目はシャープ株式会社取締役の西山博一氏を講師にお迎えし、講演会を開催しました。芸術文化としては、文化協会の事業として、文化祭を11月3日から5日にかけて開催しました。併せて市内の保育所・保育園、幼稚園、小・中学校の美術展覧会を同時開催しました。また、平成30年2月15日(木)には総合センターらぼーるの多目的ホールにおいて「三遊亭小遊三」師匠を迎え、落語会が開催されます。

続きまして施策3「生涯にわたりスポーツに親しめる環境の充実を図る」ですが、那珂総合公園を活用して各種スポーツ教室を開催しております。すでに、前期教室は終了しており、水泳教室は26教室開設し、760名定員のところ、625名受講しました。スポーツ教室は7教室開設し、210名定員のところ、189名受講しました。後期については、水泳教室24教室589名の申し込みが

あり、スポーツ教室は4教室84名の申し込みがありました。

また、施策には記載されておりませんが、2019年9月28日（土）から10月8日（火）までの11日間、県内各市町村において「いきいき茨城ゆめ国体2019」が開催され、那珂市においても、水戸農業高校に特設競技場を設置し、9月29日（日）から10月3日（木）までの5日間、正式競技の馬術が行われます。また、総合公園アリーナを会場として、6月30日（日）にデモンストラーションスポーツの3B体操が行われます。開催にあたり、那珂市実行委員会を立ち上げ、開催に向け準備を進めているところです。本年度については5月17日に那珂市庁内推進会議を、11月15日に庁内推進会議幹事会を開催し、庁内のできることに進めているところです。また、7月5日に実行委員会第2回常任委員会及び総会を開催し、条例の内容等を決定しております。また、平成30年3月5日、6日、7日及び19日にそれぞれ競技式典、総務企画、輸送交通、宿泊衛生の各専門委員会を開催します。

続きまして、施策4「未来を担う青少年の健全育成を図る」ですが、青少年育成那珂市民会議は、青少年健全育成のための施策を展開しています。取組の一環として、10月1日に「青少年の主張」発表大会をらぼーるの多目的ホールで開催しました。市内各中学生応募総数825名の中から、代表生徒10名及び水戸農業高校・那珂高校代表生徒1名ずつ、消防本部から2名の計14名が発表しました。また、11月18日には総合センターらぼーるの多目的ホールにおいて、「親が変われば、こどもも変わる」運動那珂市推進大会を開催しました。市内幼稚園・中学校・高校に通う子の保護者4名による体験発表と、子育てに関わる講演をとおして、親と子どもの関わり方や、親がどう変われば子どもがさらによく育つか等、子育てについて考える契機にするため実施しました。12月9日には、やはり、総合センターらぼーる多目的ホールにおいて子どもの目を通して思ったこと、感じたことを、言葉や絵に表現する機会と場を与え、子どもたちに、家庭の一員としての自覚と責任を意識づけるため、「家庭の日 図画・作文発表会」を開催しました。家庭教育学級では那珂市立幼稚園・保育所・小・中学校で年5回程度、20学級でそれぞれ学習しておりますが、さらに、親の教育力を高めるため、年3回合同学習会を開催しています。6月15日に第1回、11月18日に第2回、12月14日に第3回合同学習会を開催しました。また、市内在住小学4年生から6年生を対象に「小学生ふるさと教室」を3教室開設し、94名が受講しました。また、小学3・4年生を対象に「なかっこ・キッズクラブ」を開設、4回実施し、30名が受講しました。さらには、小学1・2年生を対象に「のびのび親子教室」を開設、3回実施し、20組が受講しました。

最後に施策5「貴重な歴史資産と伝統文化を継承し活用を図る」でございます。歴史民俗資料館の季節展については、平成29年4月22日から5月7日まで「端午の節句展」を開催し、920名の来館者がありました。平成30年1月5日から1月14日まで「正月飾り展」を開催し、266名の来館者がありました。1月28日から3月5日まで「雛人形展」を現在、開催しております。特別企画展については、7月22日から9月3日までポスター展「茨城の魅力」を開催し、2,546名の来館者がありました。10月28日から12月2日まで「THE水郡線」を開催し、2,170名の来館者がありました。また、市内の小学3年生が歴史の授業として、資料館に来館し、昔の道具を学ぶことをおこなっております。市史編さんについては、平成28年度発刊「発掘調査で甦る古代の那珂市」を平成30年1月末現在で82冊を販売しました。

以上、生涯学習課所管分についての経過報告です。

海野市長： ただいま、大綱に掲げた取り組みについて、事務局から全体的な概要の説明がありました。特に学校教育については、今後、学習指導要領の改訂も予定されている中、那珂市の教育施策がどのように進捗しているか、この機会に、ぜひ確認したい思いがありますので、詳しく説明をお願いします。

大高指導室長： （学校教育の取り組みについてプレゼンテーション）

それでは、私の方からは学校教育の進捗状況についてご説明をさせていただきます。私の方からは、教育委員会の方で取り組んでいる様々な事業について、まず、那珂市の学校教育の基本方針と施策の中で数値目標を立てておりますので、その達成状況について説明します。それからふたつ目としましては、今年度の様々な事業取り組みでまいりましたけれども、そういった中で特徴的なものを、4点、ご説明をさせていただければと思います。よろしく願いいたします。

まず那珂市の学校教育の基本方針と施策ということで4月に各学校に配布して、その後達成に向けて各学校で工夫して取り組んでいただいております。みんなに勧めたい一冊の本推進事業、体力テストの総合評価、朝食摂取率、それから小中一貫教育関係の中から今勉強していることは将来役に立つ、さらに、自己肯定感という観点から数値を立てておまして、アンケートやテスト結果に基づいて、この数値を達成するというところで今努力をしているところでございます。まず、みんなに勧めたい一冊の本推進事業についてですが、小学校では年間50冊以上80%、中学校では30冊以上30%ということで設定しております。これは年間の達成率となって、現在、

1月段階ではですね、まだここまで達成していませんが、平成28年度の1月と今年度の1月12日の数値を比較したものでございますが、昨年度、この時期は小学校では50冊以上71%、中学校では16%でございました。今年度の小、中学校の達成状況は、現在はこのような状況です。小学校は昨年度と同じくらいで、中学校は昨年度より30冊以上の読書率が増えていて、中学校が比較的頑張っているところでございます。年間では、28年度はほとんどの小学校が100%を達成して水戸教育事務所の方から所長賞をいただいております。

ふたつ目としては、体力テストの総合評価です。60%をAプラスBとして60%を目標としています。今年度の結果は、このような結果です。29年は小学校では61.3%、中学校は58.9%、中学校に関してはちょっと落ちていますが、こうして見て分かるように那珂市は、女子のパワーが凄いいことが分かります。昨年度は小学校で60.1、中学校で55.7です。平成29年度は28年度の成果というものが出た結果でございまして、28年度を数値目標達成に向けて、各学校で努力していただいたということです。今までの課題なのですが、投力、ボール投げの力が弱いということをやずっと言われていたのですが、今回大きく変わりました。長座体前屈、上体起こし等の柔軟性に関するものが若干低いです。それから一部学校では握力が極端に低いという結果が現れております。学校の方でもこちらの課題に取り組んでいただいているところでございます。残りのアンケート調査については、また後でお話しさせていただきます。

次に、今年度の取り組みとして、4点お話をさせていただきます。まず英語教育の充実についてですが、先ほども課長からも英語教育の取り組みについて、説明がありました。指導室としましては、こちらのポンチ絵を示し、各学校の方に組みんでもらう取り組み事項としております。それから、教育委員会とALTが連携を協力することです。そして、子供たち対象に行っている授業と両輪で子供たちの英語力を上げていこうということで取り組んでいます。外国語活動推進リーダー教師を各小学校で指定してもらいまして、各小学校での英語教育を推進してもらっていますが、当然授業の質の向上はもちろんなのですが、イングリッシュルームを開設して、そこに行けばALTと会話ができる、それから英語検定試験の対策、またはALTが外国語活動の授業だけではなく、色々な教科、算数や理科といったところにALTが入って、そしてTTとして活用してもいいですよとしています。そのときに、ALTですから、外国語でのやりとりということも当然起こってきますので、普段使いの英語が使えるというようなことを少しずつ取り組んでいただいている

ます。また、教育委員会ではイマージョンスクールの実施や職員の研修等の充実を目指しています。その結果、英検3級相当の実力を有する生徒の割合というのがまずひとつの指標として、県の目標であるのですが、平成32年度には英検3級相当の実力を有する生徒の割合が60%となるように目指しましょうというのが県の指針です。平成28年度は122名、9年生499名の中で122名が対象として、24.4%です。大きく60%を下回っていますけれども、これが今年29年度は、42.3%ということで、17.9%増加しています。この指標に基づいて、各学校の方でも積極的にそういう取り組みをしていただいているということで成果が現れてきていると思っています。今後も英語担当の指導主事の方から、平成32年度では60%達成できるように色々な研修等の計画を立てております。また外国語教育の狙いとしては、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、更にコミュニケーション能力を養っていくことが狙いとなっています。そこでもうひとつ、子供たちの意識として、「外国の人と友達となり、外国語のことについてもっと知ってみたい」という意識を持つことが、英語を使うということの態度に繋がってくるのではないかなと思います。この指標を立てて、上げていくということ、今年度から学校の方をお願いをしているところでございます。現在の全国平均が64%ですので、那珂市の子どもたちの環境に関してはまだ低いですが、今後とも数字として示しながら取り組んでいきたいと思っています。

続いてICTの活用です。タブレット型のパソコンを各学校に40台ずつ導入しました。平成28年、29年と、今年で2年目になりますが、昨年度は教員1人1台の活用から29、30年度ということで、徐々に、児童生徒1人1台活用できるような形で、取り組んでいきたいと思います。その準備段階として、学校で色々な研修を進めていきたいと思いますということをお願いをしているところです。もう既に今の段階でも、素晴らしい力のある先生方は、児童生徒1人1台の活用までチャレンジをして成果を上げていただいていると思います。そのICT活用の一例ですけれども、まずタブレット端末の中に授業支援システムをいれてあるのですが、このシステムを使ってグループ学習をしています。これは動画を見て動物の生態について特徴について学習しているところです。小学2年生なのですが、送られてきたデータを基にして、図形の分類をしていくという授業です。こういうふうに自然と当たり前のように、思考を広げていくということが可能になっています。それから、これは子供たちの跳び箱をしているのを動画で撮って、後で動画を見て振り返り、跳び方はどうだったとか、こうすればよかったとかという、今までは他者からアドバイスをしていた学習を自分で自分の姿を見て自己

評価ができるということです。これも発表の場面を友達が撮って、そして声の大きさとか態度というのも自己評価ができる。これは特別支援学級の子供たちが自分たちの活動を振り返っている。特別支援の子供たちも目で見て、感じるができるというような多様な活動ができています。これは小学校2年生が町探検に出かけて、お店の人とのインタビューをとって、学校に戻ってきて振り返るという活用をしています。こちらはこの授業の中で使っているひとつの特徴として、タブレット端末でプリントを配布し問題を解いて発表するということです。先生が持っているプリントを手渡しで配るのではなくて、先生が持っているプリントのデータを各端末に送ります。送ったもの書き込んでそこに考えを書く。書いたものを全体で発表して、そして共有する。もちろんこのタブレットに書き込んだ考えは、4人グループで集まると4人のグループで考えたワークシートを1枚にすることができる。そして、考えを比較することができます。そういった多様なアイデアはこの機能を使って、アイデアを持っている先生が授業の形態を工夫しているということで、可能性が広がってきているところでございます。これはひとつの学園でしかやっていないところなのですが、人と物の移動を伴わないICTを活用した他校との交流ということで、額田小学校と横堀小学校の子どもたちがスカイプを活用して生活科の授業をやっています。これは向こう側で横堀小学校の子どもたちが発表をしてそれを額田小の子たちが聞いている。同じテーマで学習して、それを共有しているということです。子供たちがバスを借りて時間をかけて交流して、帰ってきてということではなくて、本当にこの時間だけあわせて授業やろうねっていうと、様々な那珂市内の子どもたち、それから可能性としてはオークリッジの中学生とも交流しました。そういうようなことで、可能性が広がっていくものではないかなというふうに思っています。今後那珂市で求める授業力デザインとICT活用指導力というもの段階レベルを上げていこうと、先生方のレベルをレベル1からレベル5まで設定をして、そしてその先生方の技量を上げていこうという目標で取り組んでいけるように、これを提示しているところでございます。これまで積み上げてきた実績として、各校の実践を積極的に外部に発信するようにしています。茨城県の教育音学研究会が茨城大学に事務局があるのですが、そこで菅谷西小学校がポスター発表をしています。それから、瓜連小学校の伊藤先生が発表、月刊誌への投稿、そして来週大阪で日本教育情報化振興会情報教育対応教員研修全国セミナー大阪大会で伊藤先生が発表する。この発表に際して動画を撮って、授業のひとつのモデルというものを提案しています。それを全国大会で発表する。今中心になってやっている大学の先生が、こういうデータとしてやるパ

ネルディスカッションの方にも参加する。那珂市でやっている取り組みを他へ広げていこうと取り組んでいるところです。

みつつ目としてライフスキルで、子どもたちと教師とのスキルアップ研修というものに取り組んでいます。ライオンズクエストというライオンズクラブへ協力いただいている教育プログラムを活用して、人間関係づくり、絆づくりをやっていこうというプログラムです。こういう教材を用いて学級開きをしたり、子どもたちの人間関係を作るようなエクササイズをして先生たちが研修をしています。この研修の結果、先生方からとったアンケートですけれども、「このワークショップに満足した」とか「学校に戻って体験した授業を実施する準備ができた」とか、「生徒を尊重した対応とはどのようなものかというものを理解した」とか、頭でわかっているにもかかわらず実際の体験を通してやっていくということで、先生たちのスキルアップを図っているところでございます。先生たちの率直な感想としては、先生自身が自分の選択肢が増えたのを感じることができ、先生自身の意識改革に繋がっているということです。来年度も応募して進めていく予定です。

続きまして、イマージョンスクールについてです。イマージョンスクールの開催ということで旧本米崎小学校を会場にしてハロウィンパーティーをやったときの写真です。ハートコーポレーションで環境を整えてもらい、その中で子供たちが色んな衣装をしてパーティーに参加して、オールイングリッシュで取り組んでいます。内容は色んなブースを作って、そこで英語でALTさんとコミュニケーションをとって色々なゲームを楽しんだということです。例えばカボチャのバックを作って、工作から始まってそのバックを持って色々回りながらキャンディーをもらっていくというプログラムで充実した一日だったと思います。こちらについて英語教育充実の観点からアンケートをとったのですが、他校の友達と英語で触れ合うことがよくやっていたよという感想でした。それからALTさんからは、「英語のレベルは平均より高い子供たちが多かった」、「興味を持ったものや驚いたものについて英語で説明をしたが、よく理解できている様子であった」、これは子どもたちの感想です。「英語が楽しく学べてよかったです。もう少し難しいものでも良かったです」と言っている子どもたちもいました。それから、「他の国の人々との関わりが深まった」とか、「こんな行事があるとはびっくりしました」等、このように体験することによって、その子なりの色々な気づきがあった、というプログラムだったかと思います。来年度以降もこういう機会を増やしていきたいと思っています。

体験型のもうひとつは、官学連携による日大文理学部の連携授業の中で、中学生2年生を対象として、日本大学文理学部の一日体験

を行いました。那珂市の中学生21名が参加してバスで行ったわけですが、大学の講義、大学の説明、現役大学生によるキャンパスツアーに招待してもらいました。サークル活動の見学体験もやってきました。これは大学の講義ですね。それから、日本武道のサークルとハンドボールのサークルからと色々な大学生から中学生へメッセージをいただきました。この大学生は今やっている中学校の勉強が大学生でどのように使われるかということ自分の体験を通して熱く語ってくれました。子供たちの感想です。「将来役立つ大学見学だった。大学で学ぶことについて知ることができた」、「大学に関するイメージが変わった」等、大学はすごく難しいというようなイメージがあったのだけでも、サークル活動も充実していて、自分の好きな勉強ができるどころだとイメージが変わって将来日本大学に行きたいという思いが生まれたということでした。

最後に小中一貫教育アンケートを12月に取りました。そのアンケートの結果から、小中一貫教育を進める上で、「今勉強していることは将来役に立つ」ということと、「自己肯定感」というところを色々な人との関わりの中から学んでいってもらいたいという思いがあって、この2つを取り上げて学校の方には紹介していきたいなと思っています。まず「学ぶことに意義を感じているか」ということです。27年度から3年間ということで、このグラフの変遷を載せておきました。3、4年生は27年度は高かったのですが、一度落ちて今年度は3、4年生は上がっています。5、6年生がちょっと低いのですが、今年度5、6年生の学ぶことの意義については66.7%ですので、昨年度の75%から大きく下げています。この辺についての原因なんかはこれから検証していきたいなというふうに思っています。それに比べて7年生、8年生、9年生の方は、全体的には平均は低いのですが、少しずつ上昇は見られるのかなと思っています。小中一貫教育が3年目になりました。そういう学ぶ意義とか、そういうことを学校の方でも、しっかりと押さえて取り組んでいただいていると思うのですが、子供たちの意識の中にそういうことが芽生えてもらうかたちで進めていければなというふうに思っています。それから自己肯定感です。自己肯定感については今年初めて問いました。自分に良いところがあるという指標です。3、4年生は80.1%と高いです。7年生も高い。先ほどの将来役に立つというところで5、6年生は低かったですけれども、この低いところが自己肯定感のところに関するこのアンケート調査にも表れているかなと思っていますので、この後検証していきたいと思っています。最終的には自己肯定感については、中学校では75%から80%。小学校は90%を目指して、学校の方でも取り組んでいければなと思っています。今後の取り組みとして、小中一貫教育

も3年目を迎えましたが、目指す児童生徒の姿をさらに明確にしていこう。そして、先生の授業力の向上、児童生徒の学びに向かう場の設定、英語教育の充実、ICTの効果的な活用ということで、様々な授業を展開していこうと思っております。

最後になりますけれども、教育というのは頭の中で色々考えてなかなか難しい、アインシュタインも学ぶためには自分で体験する以上はないと言っていますので、色々学校と教育委員会とか考えていったものを実現していくように進めながら、子供たちの夢の実現に向けて取り組んでいきたいというふうに思っております。以上です。よろしくお願いいたします。

海野市長： ありがとうございます。学校教育の取組みについて大高先生から説明がありましたが、皆さんの方で何かありますか。

佐藤委員： 先週の土曜日に教育表彰と小中一貫教育の発表会がありました。その中で、積極的な活動がありました。大高室長さんの講評の中に、自分が指導者になって教えることが学ぶ上では非常に役に立っているということが非常に印象的でした。3ページ目から4ページ目にある小中一貫教育、いじめ問題について、この前の小中一貫発表では、小中一貫教育で施策1の中にあるいじめ問題に取り組んでいて、7年生、8年生、9年生が小学生に優しくしようね、仲良くしようねと教えることで、自分でいじめ問題について考えられる姿が見られるという発表があり、非常に心強くて嬉しかったです。ただし、いじめ問題は非常に深刻で複雑な問題がありますが、このような方法は非常に有効だと思いますし、色々な場や機会をとおして更に進めていってほしいと思います。

海野市長： 他にはございますか。

中澤委員： いま大高先生の説明をいただきましたが、今年度私の方で学校訪問などをして、小中学校で英語教育が活発化していると感じました。小学校においては外国語活動として授業がされているわけですが、ALTの関わり方が壁もなくスムーズにコミュニケーションをとっていました。ICT教育については授業形態が大分工夫されているなど感じました。西小学校を訪問した際に、2年生が算数の図形の問題を3～4人のグループでタブレット端末を使用して解いていましたが、色々工夫していて素晴らしいと思いました。また、教職員の研修の中でライフスキルの説明がありましたが、那珂市の場合ほどのくらい参加しているのでしょうか。参加した先生たちが学校にどのように波及されているかをもう少し具体的に教えてほし

かったです。

海野市長： 他にはございますか。

住谷委員： 2月3日のらぼーるの小中一貫教育の発表会を感動をもってお聞きしました。小中学生が一体となって自分たちで考えて発表をしていく姿は小中一貫教育の成果として高く評価したいと思います。小学生が単独で発表した場合は、あんな風に上手くいかないと思います。中学生も同様で、小学生と中学生が一体となってひとつの物を作る姿勢を強く感じられました。歳を超えて小学生は中学生の気持ち、小学校から中学校への高まりを感じ取り、中学生は小学生時代の自分たちを振り返り小学生へ親切に教える。小中一貫教育も何年かやっていくと今まで見えてこなかったものが見えてきていると思いますので、一層工夫と努力をしてほしいと思います。英語教育については3級を取るという目標で努力をしているわけですが、英語教育についてはどういうコミュニケーションを相手とするのかということが重要です。那珂市の子どもたちであれば、那珂市の文化、地域、産業等を相手に伝えることが大事で、そういう知識を那珂市民としてどうやって高めていくが必要だと思いますので、その部分の工夫もお願いしたいところです。

海野市長： 他にはございますか。

小笠原委員： ICT化についてですが、授業を拝見して先生たちが非常に工夫して取り組んでいると思いました。室長の話の中でもありましたが、自分で体験する重要性を先生たちも意識していきまして、積極的に自分で体験させようということが授業の端々に見られて良いなと思いました。先般、瓜連中学校でいのちの授業がありまして、そのときの講師の先生が他県から来た先生だったのですが、たまたま生徒全員が体育館に行っていて教室に誰もいなくて教室のドアも空いていて鍵がかかっていない様子を見て、その先生は大変感動していました。私がいる県ではいじめ問題で学校も教育委員会もピリピリしていて生徒がいないときは必ず鍵を閉める、生徒が出入りに2人以上立ってはいけないなど全て規則で固められていて、このような鍵もかけずに誰もいない教室は信じられない、なんて素晴らしい学校なのだと話していました。つまり、行政の姿勢や教育のトップの視線が生徒にとって非常に優しいと話をしていました。いじめ問題は件数の多さが問題ではなく、いじめ問題について先生や行政がどう関わっていくかが大事だと思います。生徒を縛り付けない、生徒の良いところをいっぱい認めてあげよ

うということが自己肯定感を上げていることに繋がっていると思います。いじめ問題についてはシビアな問題ですが、小中学校ではなく、もっと早い段階で子どもたちの心をどう育てていくかが重要になっていくと思います。幼稚園と小学校の連携も那珂市ではうまくいっていますので、子どもたちの心をどう育てていくかを市全体で取り組んでいければと思います。

海野市長： 他にはございますか。

住谷委員： 小笠原委員からこころの教育とありましたが、読書でどういう本をどう読ませるかが重要だと思います。私の経験から言うと、優れた業績を残した人物の伝記を読むことが大事だと思います。過去にどういう人がいて、どう生きていたかを子供たちが本を読んで知ることが重要です。そういう意味では根本正さんがどういう時代を生きて、どういう業績を残してきたかを那珂市の誇りとして学ぶことが繋がってくると思います。地元の先人たちの優れた業績を那珂市民として学ぶ。そういうところから子供たちは色々な学習へ発展していくと思います。

海野市長： 他にはございますか。

佐藤委員： 施策3の生涯スポーツについてですが、先日の教育表彰の中でもスポーツだけでなく文化面でも全国的に素晴らしい実績をあげている表彰がありました。一覧表で見ただけでは実感がわからないのですが、あの舞台上で子供たちの顔や姿を見て、声を聴いて、表彰の場面に会おうと凄い活動をしているなど実感できました。そのあとの小中一貫教育の発表でも学校の代表として活躍している人もいました。実績を挙げた方は、学校の部活や市のスポーツ少年団以外の施設や環境の中で活躍している人たちが何人もいました。そういう環境と市との連携はどうなっているのかが気になりました。生涯学習課長から国体についての説明がありましたが、教育大綱の中に国体を実施するということがありませんでしたので、今後の大綱の見直しで国体を開催することで環境の充実がしていくと思いますが、将来に渡って運動に取り組んでいくというところにも繋げて欲しい。国体開催を機に、開催後でもその成果をどういう風に活用していくということを大綱に位置づけさせてほしいと思いました。

海野市長： ご意見ありがとうございました。那珂市の教育の現状について、理解を深めることができました。

先ほど小笠原先生より自己肯定感の話がありましたが、褒めると

ということが大切で、ソフトバンクの孫正義さんはお父さんにいつも良いところを褒められて育っていたらしいですが、自分の良いところを出して行って今の結果になったと聞いております。また、山本五十六が「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。」という言葉がありますが、褒めることが大事だと思います。生徒の良いところを伸ばすことが教育の原点だと思います。

私も、かねてより、子どもたちへの教育は、未来への投資であると考えております。昨今、話題になっていますが、教職員の過大な業務負担の問題など、学校現場では、様々な課題や苦労もあるかと思いますが、ぜひ本市の教育がさらに充実するよう、引き続き尽力をお願いしたいと思います。

続きまして、(2)の地域の実情に応じた教育の取り組みについて、を議題といたします。本市が進めている「小中一貫教育」においても、「地域」を意識した取り組みについては、学園ごとに創意工夫をしているものと認識していますが、私としては、那珂市全体として、統一した形で、市独自の地域資源を教育の取り組みに生かしていけないものか、と考えているところです。先般行いました那珂市市政施行10周年記念事業として、郷土発展に大きな功績のある那珂市の名誉市民として顕彰しました根本正さんはじめとしました4人の名誉市民を学習教材として取り上げて、道徳や社会科ばかりでなく、生涯学習も含めた教育全般に活用していきたい、という思いがあります。また、地域も継承されている行事や催事を改めて明らかにすることも郷土愛を持たせることに繋がると思います。また、高齢者クラブのご協力により地域の昔話などを聞かせることも子供たちが現在住む地域に興味を持たせることに繋がるかと思うところですが、事務局の方で何か考えがあれば説明願います。

大高指導室長： はい、今市長から那珂市の郷土の学習ということで話がありました。那珂市教育委員会としましても、子供たちの教育を推進するにあたって、小中一貫教育が3年目を終えて今年で4年目を迎えます。その中で、那珂市の小中一貫教育が目指すもの、さらには那珂市の教育としてどのような子どもたちを育てていくのかということ考えたときに、核となる教えというものとして先人の生き方に学ぶということを考えております。その中でも根本正顕彰会も色々活動されておりますので、根本正先生の教えをひとつの核として進めていってはどうかと考えているところです。根本正先生の功績としてはたくさんの功績がありますがけれども、教育委員会としては、この義務教育の無償化や青少年の健全育成という観点から未成年者飲酒禁止法を制定したということで、子供たち

がこれから那珂市を支える、または日本を支えていく子供たちへと育てていく上での核として誇りを持って育ててほしいなというものがあるかと思っています。これは根本正顕彰会のホームページから抜き出したものなのですが、「子供の立場に立って子供が健全に成長し、自立できる人間になるように努力した政治家」というふうに書いてあります。今は学習指導要領が変わって平成32年からスタートしますが、自立に向けて子供たちが主体的に活動していくということが求められている時代です。そういう中で、根本先生が言っている自立できる人間になるように努力したということは、これからの教育に目指すものがありますし、小中一貫教育の4つの観点の中の最後の観点が「自分らしい生き方や自立」と立てておりますので、そのような教えというものはすごく大事にしていければなというふうに思っています。

こちらの根本正先生の教育思想ということで、ある大学のホームページの中の根本正先生の紹介という講義のシラバスから抜き出したものなのですが、「人は教育の力によりて初めて人間となるものなり。而して小学教育は教育の初歩なり。小学校教育は実に「人智開発の第一機関」国民の総てが一度は必ず通行すべき公道である。この公道を通過しなければ「終生無知の不具者」となる」ということで小学校教育の大事さ、義務教育の大事さということを仰られていて、こういったことを基にして根本正先生をひとつの核にするってということで今検討しているところでございます。この検討にあたっては、歴史民俗資料館の仲田館長さんとお話をさせていただいて、根本先生の人となりや生き方というものを教えていただきながら、次の5つの観点から子供たちに学んでほしいものとして立てさせていただきました。ひとつは「感性」ということで、見たり聞いたりしたものから喜びや感動や驚きを見出す感性です。それは美しいとかすばらしいとか不思議だとかこうありたいとかいう感性を持って根本先生は、全てのものを見ていたというようなお話がありました。この感性は、普段から体験する積極性がなければ、なかなか見過ごしてしまうようなところもありますが、根本先生はそれを感じる感性が凄く高かったですよという話がありました。

そしてふたつ目は「主体性」です。感じたことを感じたままにするのではなくて、感じたことを自分の知りたいこと、やってみたいこと、主体的に関わり臆せず挑戦しようとする姿があったということで、このふたつ目の主体性という言葉を選んでみました。やってみたい、こうありたい、身につけたい、実現したいということをやってみように変えていく、そういう主体的な思いというものを大事にしたい。

そして、みつつ目としては、「忍耐強さ」です。やってみようと言ってやってみたときに、自分の夢や目標の実現に向けて困難に負けずに忍耐強く努力し続ける姿というものは、大事じゃないかと思えます。未成年禁煙・禁酒法は、それを制定するために20何年かかったというお話がありました。これを実現することにも自分の理念というものを通そうという熱い思いがあったからこそ努力し続けられたかのかと思えます。その中には、やはり子供たちにとってはどうすればうまくいくだろうとか、うまくいかなかったらこうしてみようとか、そういう視点を変えるということが大事じゃないかなと思えます。

そしてよつつ目は「感謝」です。自分で突っ走っているいろいろなやってきたけれども、それを支えてくれた人たちがたくさんいるということをも根本先生は感じて、そしてその周りの人たちへの感謝の気持ちを持ちつつ関わるというようなお話がありました。その中でありがたいという、その感謝の言葉であったり、または人と接するときの元気な挨拶であったり、社会のマナーやルールを守ろうとするような社会性、集団生活を営む上での人との関わり方で感謝の気持ちを持ちながらということで、こういう言葉をいれてみましたが、またご意見いただければと思っています。

そして最後は「思いやり」です。何か実現して何か感謝の気持ちを持ってやった上で、周りの人々に対して優しく温かい眼差しを送り思いやりをもって接することが根本先生にはあったということです。相手のためにできることは何だろうとか、相手はこんなことを願っているのだとか、みんなが幸せになるためにはどうすればいいんだろうかなとか単なる全てを相手のため、相手を優先するのだけではなくて、自分を大事にしながら相手も大事にするというそういう気持ちを大切にされていたということです。こういったみつつ目の観点を那珂市で目指す児童生徒として、いつの言葉のサイクルとして、何かうまくまとめられないかなというふうに考えています。こういったものをこれからの教育に求められています。そして、それを実現するための那珂市としての自覚と誇りを持って生活する上での核となるものとして今後学校に提案したいと思っています。今後教育委員会の中でも、協議しながらまとめていきたいと考えております。ご意見等いただければありがたいなと思っています。よろしく申し上げます。

海野市長： どうもありがとうございます。ただいま説明をいただいたのですが、皆さんから何かありますか。

住谷委員： この前ある雑誌に美術界の恩人としてフェノロサについて書かせ

てもらいました。フェノロサのいた時代を考えますと、夏目漱石、森鷗外、山本五十六、新渡戸稲造などがいて、その人たちが明治時代を牽引してきたということになります。当時の時代精神が何を指していたかという人としての美しさ、生きる美しさを追求しているところが共通していると思います。世の中のために何かやろうとしている人はいじめなどしないですし、いじめられても耐えると思います。そういう崇高な精神が明治時代を支配してきたと思います。そういう時代背景を含めて根本先生を取り上げて他の人物の関係も含めて教えることは意味があると思います。

海野市長： 他にはございますか。

小笠原委員： 根本先生については私が義務教育のときには学ばなかったですが、教育委員会に関わるようになってから偉大な業績を知ることができました。長年那珂市に住んできましたが、そういう機会がなかったことは、今になってみると恥ずかしいなと思いますので、ぜひ学校で取り上げてほしいと思います。また、現在の子供たちに関わるキーワードがありますので、学校の授業でも取り上げてほしい。その中で主体性や感性は、日ごろからどうやって育つかと考えていますが、大人が子どもたちに全て用意して与え続ける環境の中で、少しでも自分の知りたいこと、やってみたいことを挑戦しようとする気持ちは、いかに子供たちに丁寧に関わってくるかが重要かと思えます。先生たちが優しい眼差しで見ると同時に、様々な苦手な部分を持つ子供たちの苦手な部分にどう丁寧に目を向けていくかが重要になってくるのかと思えます。様々な分野でちょっと苦手意識を持っている子供たちが増えていると言われていた中で、そこに適した対応を取ることで、その子供たちがどんどん苦手意識を克服していくことに繋がってくると思います。偉人の考えを学校教育に繋げていくことでこれらの問題も解決することが可能になってくると思います。

海野市長： 他にはございますか。

佐藤委員： 私には小学校4年生の孫がいるのですが、先日学校で根本正について学んできたと私に話をしてくれました。大変いいことだなと思いました。大変喜んで受け入れている様子が見られました。私が感じたことは、那珂市の目指す児童生徒ということで5本柱がありますが、郷土愛、郷土の誇りも柱建てにはならないのかなと思いました。

海野市長： 他にはございますか。

中澤委員： 私も生まれからずっと那珂市ですが、根本正という人物については学校で学んだ記憶はないです。教員になってから根本正顕彰会の活動によって初めて東木倉の方にこういう人がいたのだと知りました。室長から那珂市の目指す児童生徒像という中で、根本正をということでしたが、感性、主体性、忍耐強さ、感謝というところがなかつた宣言とのリンクしているのではないかな、それに発展性が持たれたのがこの5つの柱になのかなと思って聞かせてもらいました。

海野市長： ありがとうございます。他にはございますか。

( なし )

学校を核として、地域資源を生かした教育活動を進めることで、地域を理解し愛着を深め、地域に誇りを持つ人材の育成につなげていっていただければと思います。

それでは、協議事項の(3)、その他になります。委員の皆様、何かございますか。

中澤委員： 小笠原先生から話がありましたけれど、教育支援センターの機能の充実という中で、戸多小学校跡地が教育支援センターとなり、那珂市の教育支援の中心となると聞いております。相談員が1名増となって、機能も充実しているということお聞きしました。発達障がいを持った児童生徒の数は段々増えているのかなと思います。不登校の児童生徒も義務教育のときには一生懸命関わるのですが、そのあとはどうなっているのかなと最近思います。文科省で20代から60代までのひきこもりの人数を調べた数字を見たのですが、茨城県は全国で2番目に多かったです。義務教育が終わった後、うまく社会に適応できるのがベストなのですが、卒業した後はその子たちに関わることなく、そのままズルズル来ちゃっているのかなと思います。職員の先生が何人かいますが、そういう風な関わり方を持っていて卒業したあとどうなるのかなと心を痛めているのかなとチラッと思いました。行政としてプラスアルファで何かできることがあればなと思います。今現在の教育支援センターの機能の充実を更に那珂市としてもレベルアップしていただければなと思います。

小橋学校教育課長： 発達障がいの方が増えているのだろうかと話がありましたが、実際増えております。発達に問題があるお子さんを小学校にあげる

ときにどういった教育が適しているか、特別支援学校、特別支援学級、あるいは普通教室どれがいいのか検討する教育支援委員会があります。その委員会にかかってくる案件が毎年増加傾向にあります。実際特別支援学級に入る子どもたちも増えています。幼児教育と小学校教育との接続のタイミングの問題も関わってくるのだと思っています。ライフステージで行政が関わる窓口がどうしても限定されてしまうことがあります。生まれたときはこども課。1歳健診、3歳健診で発達の遅れが発見されるのが健康推進課になります。保育所や幼稚園になってからこども課、学校教育課に繋がっていく。そして、一番の関門が小学校への就学というステージになります。これまで関わってきた部署が連携して、情報を共有して一番適した形で学校教育を受けさせる環境を整えられるかという大きな課題の中、支援体制の充実という観点から取り組んでいるところです。

義務教育が終わった後、高校生から成人になるにしたがって、ステージが変わることで関わり方も違ってくると思います。教育支援センターでは義務教育を卒業して大きくなった人たちの相談もあれば受ける体制をとっています。ただし、発達障がいを持った子たちがどんどん増えている中、教育支援センターでの業務量がかなり増加しています。いま7人体制で相談員、2人のカウンセラーでやっていますが、マックスの状態です。今回、相談員を1人増やしておりますが、発達支援センター「すまいる」と連携しながら、公立私立関係なく幼稚園、保育所に出向いて行って早期発見に努めているところです。「すまいる」の方でも対象児が随分増えているということで、体制の充実、つまりスタッフの増員ということになると予算の関係で専門職を雇うには報酬が少なく、専門職の方も病院などの方が報酬も多いので、募集をしても人材を確保できないという色々な障壁がある中でできることからということで進めていっているところです。今後もこれらの問題はどんどん重要で深刻になっていくと思われまますので、私たちも努力していきたいと思っています。

海野市長： よろしいでしょうか。

中澤委員： はい。

海野市長： 他にはございますか。

住谷委員： 私も不登校の高校生を預かったことがあります。ひきこもりで親の言うことも聞かなくてどうしていいかと相談を受けましたが、

結局は辞めてしまいました。ついこの間まで預かった子は大学生でしたが、人前で話すことができなくて、就職試験でもダメだということでした。頭も良くて超難関大学を出ているのですが、公務員試験も1次試験は通るのですが、集団面接でダメということでした。解決するにも難しいですが、ひきこもりについては小中学校だけでなく、社会的問題として捉えていかないといけないと思います。対応するにも私が勤めていた学校では専門家を雇うにも1時間5千円ということで、1日いるだけでも大変な額で、それが毎日となる市の財政がもたないことになります。もっと別な方法で解決していかないといけないと思います。大変ですが、知恵を出して解決していくしかないと思います。

海野市長： これらの問題を解決するような制度を考えているところですので、よろしくをお願いします。他にはございますか。

小笠原委員： 那珂市はここ何年か目に見える形で大変手厚くしていただいている印象があります。就学前に関しては、発達支援センター「すまいる」であったり、昨年から教育支援センターへの接続を目指して職員を配置していただいているという、明らかに以前と違って市全体として何とかしようとする意識が大変高いと思います。これは他の市町村の幼稚園・保育園業界からも那珂市は凄いねと言われているレベルでありますけれども、まだ悩みは深いと思います。「すまいる」に関しては専門の先生を各施設に派遣しておりまして、指導を受けてその指導を活かすということは施設であるということが大きいと思います。お子さんを預かって発達障がい等を早期に発見するだけではなくて、早期に発見するということは集団から排除して特別視とするということになりますので、特別視しないやり方で子どもたちの心を傷つけず、良いところに育ったなという意識が社会人になってからも非常に関わってくる、影響が出てくると思います。その子の特性を理解して特性に合った対応をするという意識を皆さんで持ってもらって、実際手助けはしてもらっているのです、あとはどう活かすかということになると思います。那珂市としては非常にしっかり取り組んでいて、ありがたいと思っております。

海野市長： 他にはございますか。

大縄教育長： ありがとうございます。海野市長が主催しているわけですがけれども、私もこの立場で初めて総合教育会議に出席させていただきました。協議事項（１）、（２）を含めまして、学校教育におい

ては教師の教育に対するあり方、意識のあり方を大事にしていけないといけないなど改めて感じました。小中一貫教育、ICT化等色々出ていますが、そうはいつでもそれを担うのは教師であり、誰のためにやっているかというところ全ては子どもたちのためということになります。そこを那珂市教育委員会としてしっかり押さえて、就学支援を含めて常に確認しながら進めていくことが大事だと思います。新たなものを取り入れることも大事ですが、今まで自分たちがやってきたことをしっかり振り返ること、見つめ直すことも大事だと改めて考えさせられました。特に時代は動いておりますが、教育の現場だけ取り残されていると感じもなくはないです。我々が時代に合った教育が出来ているか先を見越した教育を進めていこうとしているのかをこれから先きちんと考えないといけないと思いました。そのときに教育行政として忘れていけないことは学校現場を大切にしたい。ここを忘れては教育が進んでいかないと考えます。併せて生涯学習、社会教育についてはやはり体験重視、そして具体的に動くこと、アイデアを出して創意工夫を活かして色々なことをやること、体験すること。今までと同じことの繰り返しではなくて、何が変わったか。これが受講している人のためになっているのだろうか。そういったことを生涯学習にも学校教育においても考えながら進めていかないと考えました。どこまで具体的にできるか分かりませんが委員会の中でも事務局の中でも考えながら今後進めていければと思います。ありがとうございました。

海野市長： ご意見ありがとうございました。今回意見交換できたことについても、今後の那珂市の教育行政に活かせればと思います。

最後になりますが、那珂市教育大綱に基づき、那珂市の教育行政が進められていくことになりますが、この総合教育会議の場におきまして、大綱の進捗状況等を検証しながら、那珂市の教育の更なる充実に向けて、委員の皆様と連携協力していければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上で、本日の協議事項は終了いたしました。進行へのご協力、誠にありがとうございました。それでは進行を事務局にお戻しします。

川田総務課長： 活発なご協議、貴重なご意見ありがとうございました。

続きまして、次第4の連絡事項になります。事務局から願います。

小泉総務G長： 今年度の会議の開催につきましては、懸案事項等が出た場合

に会議を開催したいと考えております。その際には、今回と同様に大綱の進捗状況を確認することになると思います。

また、来年度の開催についてですが、平成31年度から新たな大綱のスタートとなるため、大綱の見直しを行っていくこととなります。

会議開催の際には通知を差し上げてお知らせいたしますが、開催回数については3回程度を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

川田総務課長： その他市長含めて委員の皆様から何かありますか。

( なし )

川田総務課長： それでは、以上をもちまして平成29年度第1回那珂市総合教育会議を閉会といたします。

慎重なご協議ありがとうございました。